令和元年度いじめ問題解決に向けた子ども会議開催要項

○　テーマ：**「笑顔、やる気、希望いっぱいの学校づくりに向け私たちができること」**
～一人一人の違いに気づき、考え、行動する～

○　趣　旨

いじめの予防や再発防止については、各学校では、喫緊の課題として、すべての教職員が共通の認識をもち、組織的な対応をしている。

これまでの「いじめ問題解決に向けた子ども会議（以下「子ども会議」）では、各校のいじめ問題解決に向けた取組の発表を行ったり、いじめ問題の事例を検討したり、小中学校が連携した取組について、意見交換を行ったりするなどして、児童生徒が主体となっていじめ撲滅に向けた取組を推進することをねらいとしてきた。

今年度も引き続き、以下の目的で「子ども会議」を開催する。

- 各校で進めてきたいじめ問題解決に向けた取組を発表し合うことで、お互いの学校の取組を参考にし、令和元年度の自校の取組に生かす。
- 子どもたちの中には、自分がされた行為に対して「いじめと感じる子」、「いじめと感じない子」がいる。これは一人一人の感じ方の違いがあるためである。相手のことを理解せず、自分を基準に言葉を発して、相手を傷つけてしまうことも少なくない。また、言葉を発した本人は、相手を傷つけている、またはいじめと認識していないことも少なくない。一人一人の違いを理解すること、その上でどのように関わりをもつのかを考えることを通して、当事者意識をもっていじめ問題を解決しようとする意欲を高める。

○　開催期日　　令和２年２月７日（金）午後３時００分より

○　場　所　　藤岡市総合学習センター　教育庁舎　３階会議室１・２・３

○　参加者　　各小学校５年生または６年生の２名、各中学校２年生２名
市内各高等学校生徒２名
市Ｐ連会長、生徒指導担当校長２名
各校子ども会議担当教諭

○　内　容　　司会　西中学校

①　開会行事
②　全体協議：「感じ方の違いがいじめにつながるのか」について
③　班別協議：「それぞれ感じ方の違う友達に、わたしたちができること」について
④　感　　想：市ＰＴＡ連合会長
⑤　講　　評：生徒指導担当代表校長
⑥　閉会行事

令和元年度いじめ問題解決に向けた子ども会議の概要

日時：令和２年２月７日（金）15 時 00 分～
会場：教育庁舎３階　会議室１、２、３
司会　中学校代表生徒（西中）

田中教育長のあいさつ

この子ども会議は、いじめの問題を子どもたち自身が自分の問題として考え、「いじめをしない、させない、許さない」という意識を高めていくことを目的として始まりました。今日話し合ったことを学校のみんなに伝え、学校からいじめをなくしてほしいです。また、藤岡市では子どものいじめをなくすために大人も考える会、教育懇談会を開催しています。

大人も子どもも、いじめ問題について真剣に話し合い、継続的に多くの人が関わりをもつことで、いじめで苦しむ子どもがいない、笑顔とやる気、希望いっぱいの学校になることを期待しています。

第１部 全体協議「感じ方の違いはいじめにつながるのか」

司会者　西中　佐藤君、木村さん

４つの言葉「おとなしいね」「マイペースだね」「まじめだね」「個性的だね」の中で、言われてうれしい言葉、うれしくない言葉について、選びましょう。そして、その理由をグループで発表しましょう。

私は言われてうれしい言葉は、「個性的だね」です。自分の個性が理解されていると思ったからです。うれしくないのは、「おとなしいね」です。理由は、自分の意見が主張できない子と思われていると思ったからです。

４つの言葉の中で、言われてうれしい言葉、うれしくない言葉を一斉に挙げてみましょう。

周りの友達が出したカードを見て、どのように感じましたか。

みんな感じ方は違うと思いました。

Ａさんについて、考えましょう。

周りの友達はどうして、Ａさんをさけるようになったのでしょう？

令和元年度　いじめ問題解決に向けた子ども会議

学校　氏名

Ａさんについて、考えましょう

Ａさんは休み時間になると、教室でぼっつんと一人ぼっちでいます。

Ａさんは算数が得意で計算も速く、計算コンテストでもいつも上位です。

絵も上手で、いつもコンクールでも入賞しています。

でも、Ａさんは人前で発表することが苦手で、発表する時になると何を言ってよいか分からずにだまってしまいます。

また、Ａさんは話をしている子をみかけると、自分のことを笑われているような気がしてしまい、悲しい気持ちになります。

ある時、Ｂさんは「Ａさんはおとなしいね。もっと積極的にみんなに話しかけたほうがいいよ。頑張って。」と声をかけましたが、Ａさんは泣き出してしまいました。

次第に周りの子はＡさんをいろいろな場面で避けるようになりました。

・励ましているつもりで言ったひとことがＡさんを傷つけていて、Ａさんは感じ方が違うと思ったから

・Ａさんが泣いてしまったから、声がかけづらくなったから

・Ａさんへの関わり方は難しいと思ったから

周りの友達はいじめをしていると思っていない。でも、Ａさんは傷ついてしまった。

感じ方が違うことは、いじめにつながってしまうことがある。

第２部　班別協議

「それぞれ感じ方の違う友達に、わたしたちができること」

感じ方が敏感なＡさんとの関わり方について、考えましょう。

○話しやすい、コミュニケーションのとりやすい環境をつくることが、周りの人ができることだと思う。
○泣いている理由を聞いて、悩みごとがあれば、相談にのってあげる。
○性格や特徴を周りの人が理解してあげる
○Ａさんの感じ方の違いを理解する。

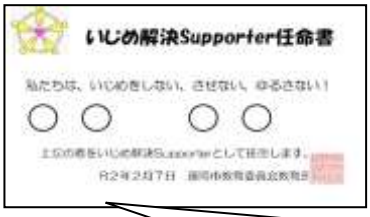
○Ａさんはコミュニケーションをとることが苦手だから、積極的に声をかけて、仲の良い関係をつくる。

○Ａさんと一緒に活動しながら、よさをみつけていく。

○言われてうれしいことを知らないと、つい嫌な言葉を言ってしまうことがあるので、積極的に関わりをもつ。

○Ａさんはたくさんよいところがあるので、よさを認めてあげる、ほめてあげるほうがよい。

第３部　各班からの発表・まとめ・ふりかえり


いじめ解決Supporter任命書

私たちは、いじめをしない、させない、ゆるさない！

○　○　　○　○

上記の者をいじめ解決Supporterとして任命します。

R2年2月7日　福岡市教育委員会教育長

班別協議で出された意見について、中学生が発表しました。

・相手のことを考える

・相手のことを理解する

・特徴を理解する

・積極的に関わりをもつ

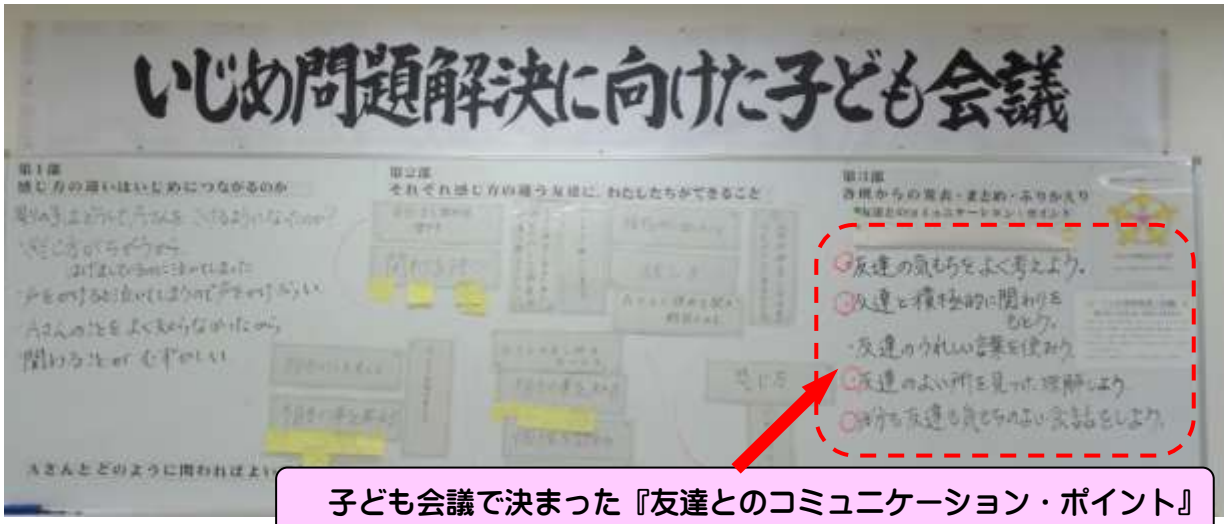
・声をかける

・コミュニケーションをとりやすい環境をつくる

・相手のよいところをみつける

・Ａさんのそばにいてあげる

子ども会議参加者を各学校の「いじめ解決 supporter（サポーター）」に任命し、班別協議で出された意見をまとめ、「友達とのコミュニケーション・ポイント」としてまとめることになりました。



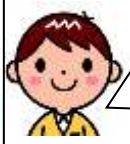
子ども会議で決まった『友達とのコミュニケーション・ポイント』

「コミュニケーション・ポイント」の中で、「友達のよいところみつけ、理解しよう」とありますが、どうやったら理解できるのでしょう。

○少しずつ関わりをもちながら理解していくことが大切です。

○よいところや個性を認め、徐々に話をしながら理解していくことが大切です。

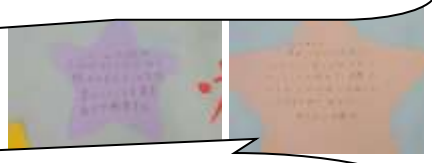
大人がいじめについて話し合った教育懇談会のリーフレットを配り、大人の意見と子ども会議で出された意見を比べ、気づいたことを発表しました。



「まずは家庭で違いや個性を認めていく必要がある」という意見は、同じ意見です。親とも、お互い違いを認めていきたいです。

「お互いが違いを理解する」ということが大切で、常に意識していくことが大切だと思いました。

いじめ解決 supporter（サポーター）宣言



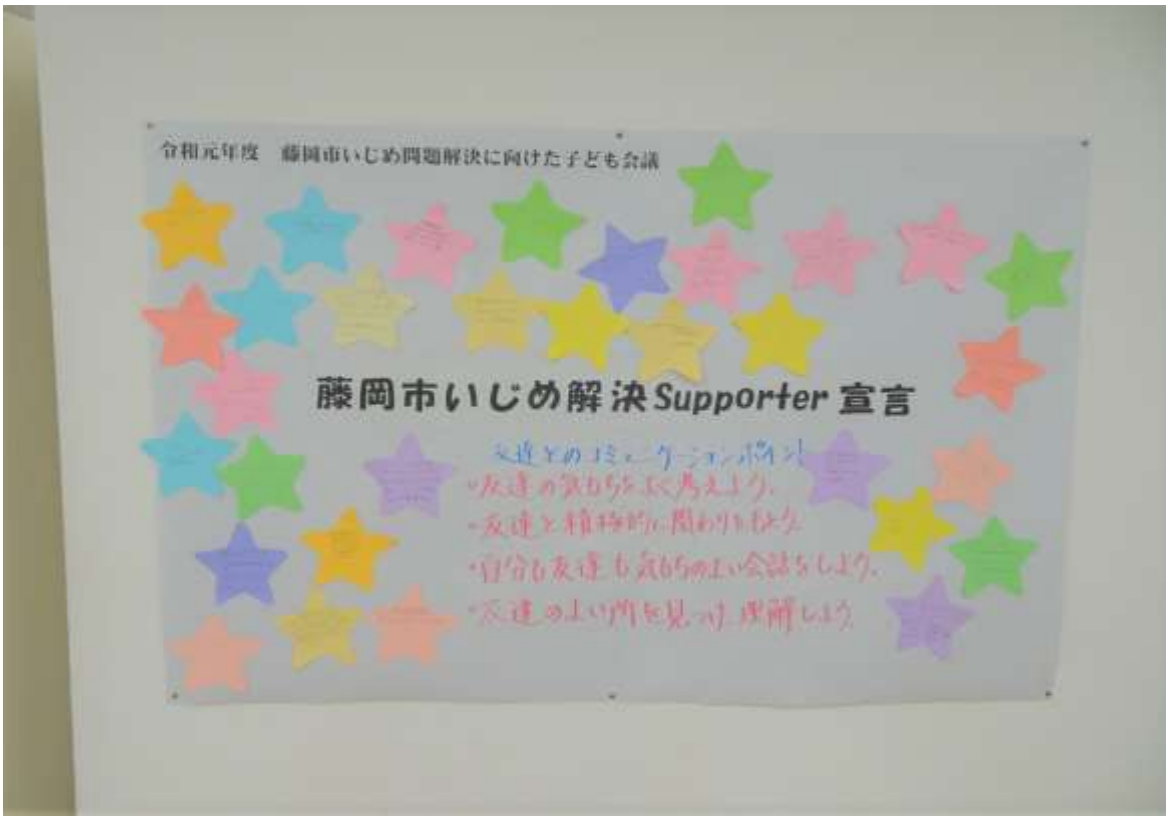
今日子ども会議で決まったこと「友達とのコミュニケーション・ポイント」をどうやって、学校の児童生徒に伝えますか。これから取り組んでいきたいこと、心がけていきたいことを発表しましょう。

○朝の集会でみんなに伝えていきたいです。

○ポスターや声がけをして広めていきたいです。

令和元年度いじめ問題解決に向けた子ども会議

いじめ解決 supporter（サポーター）宣言



いじめ解決 supporter（サポーター）宣言

一人一人の個性を認めることが大切で、関わりを持つことも必要ということを業前の集会などで発表する

感じ方は人によってちがう。だから、自分がいいと思っていても、他の人にはちがう意味で伝わってしまう可能性があるということをみんなに伝える。